

Accuphase

STEREO CONTROL CENTER

model C-230

ステレオ・プリアンプリファイヤー

取扱説明書



このたびはアキュフェーズ製品をお買上げいただきまして誠にありがとうございました。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで数多くの厳しいチェックを受け、その過程及び結果が一台ごとの製品の履歴書として明細に記録され、社内に保管されております。このように完全な品質管理体制の中から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。末長くご愛用下さいますようお願い申し上げます。

お 願 い

お客様カードを付属していますから、これに必要事項をご記入のうえなるべく早く（お買上げ後10日以内に）ご返送ください。お客様カードと引きかえに品質保証書をお届け申し上げます。

製品に関するお問い合わせ、または異常が認められるときは、弊社、品質保証課または、お求めの専門店へ、直ちにご連絡くださいますようお願い申し上げます。

目 次

特長	2
接続方法	3
各部の名称と動作説明	4
ご注意	9
ご使用方法	9
ブロック・ダイヤグラム	11
保証特性	12
特性グラフ	13

特長

■全増幅段対称型プッシュプル駆動,A級DC構成,ICL方式

ヘッド・アンプの入口から最終出力段まで、全増幅段をアキュフェーズのオリジナル回路対称型プッシュプルで構成しました。しかもA級増幅ですから理想的な素特性を得ることができ、少量のNFBで良好なひずみ特性が得られ、TIM（過渡相互変調）ひずみを大幅に改善しました。

そして、より一層色付けの少ない再生音を実現するために、NFBループ内の大容量コンデンサーを取り去りDC化すると共に、入力にバッファー用FETを使用しカップリング・コンデンサーも取り去りました。(ICL方式)

■出力段にMOS FETを採用

イコライザー・アンプ及びハイレベル・アンプの出力段に、プリアンプとしては世界で初めてのMOS FETを採用しました。高域特性に優れ、しかもノッチングひずみが皆無、加えてA級ドライブにより限界的な諸特性を得ています。

■各ユニット・アンプに専用の定電圧電源回路を搭載

広帯域アンプほど、全域にわたって電源のインピーダンスを下げねば、安定で良質な再生音を得ることは不可能です。MHzの領域になると数cmの配線でもインピーダンスを持ち、いかに優れた定電圧電源であっても効果は半減します。本機では、思い切って各ユニット・アンプのプリント・サーキット・ボードにそれぞれ専用の定電圧電源を設けました。これにより、理想電源に近い状態となり、極めて優れた安定性と諸特性を得ることができます。

■DCサーボ方式低出力インピーダンスのハイレベル・アンプ

本機のハイレベル・アンプ（トーン・コントロール・アンプ）は直流ドリフトを取り除き徹底的に安定化させるDCサーボ方式となっています。これによってNFBループ内のコンデンサーはもちろんのこと、入力、出力コンデンサーも取り去ることができ、色付けの少ない良質な再生音を得ることができます。また、トーン・コントロール使用時でもDCアンプとして動作し、音のクォリティを高いレベルに保ちます。出力インピーダンスは全域にわたって20Ωと、プリアンプとしては非常に低い値で、パワー・アンプの入力インピーダンスや出力ケーブルが音質に与える影響を最少限におさえることができます。

■あくまでも音質を重視したイコライザー・アンプ

レコード再生の心臓部イコライザー・アンプは、チャンネル当り15石構成という技術の粋を尽くした贅沢な回路で、諸特性は極限の性能を実現しました。ここでも良質な音質を実現するために色々な新しい手法が導入されていますが、その一つが入力の帰還防止回路で、これによって補正コンデンサーの必要も無くなり高域ひずみ特性を一段と改善しております。

■高S/Nヘッド・アンプ

対称型プッシュプル回路で構成されたヘッド・アンプは、MCカートリッジの微細な信号を忠実に増幅してくれます。そして最も問題となるノイズに対しては、最新の超ロー・ノイズ・トランジスターを採用、ディテールの豊かな再生音を期待できます。

■A級ピュアコン直結ヘッドホーン・アンプ

本機の隠された特長の一つがヘッドホーン・アンプです。A級DC構成ピュアコン直結の専用アンプにより、再生音の情報を忠実に伝えてくれ、プログラム・ソースのモニターに最適です。

■豊富な音質コントロール機能

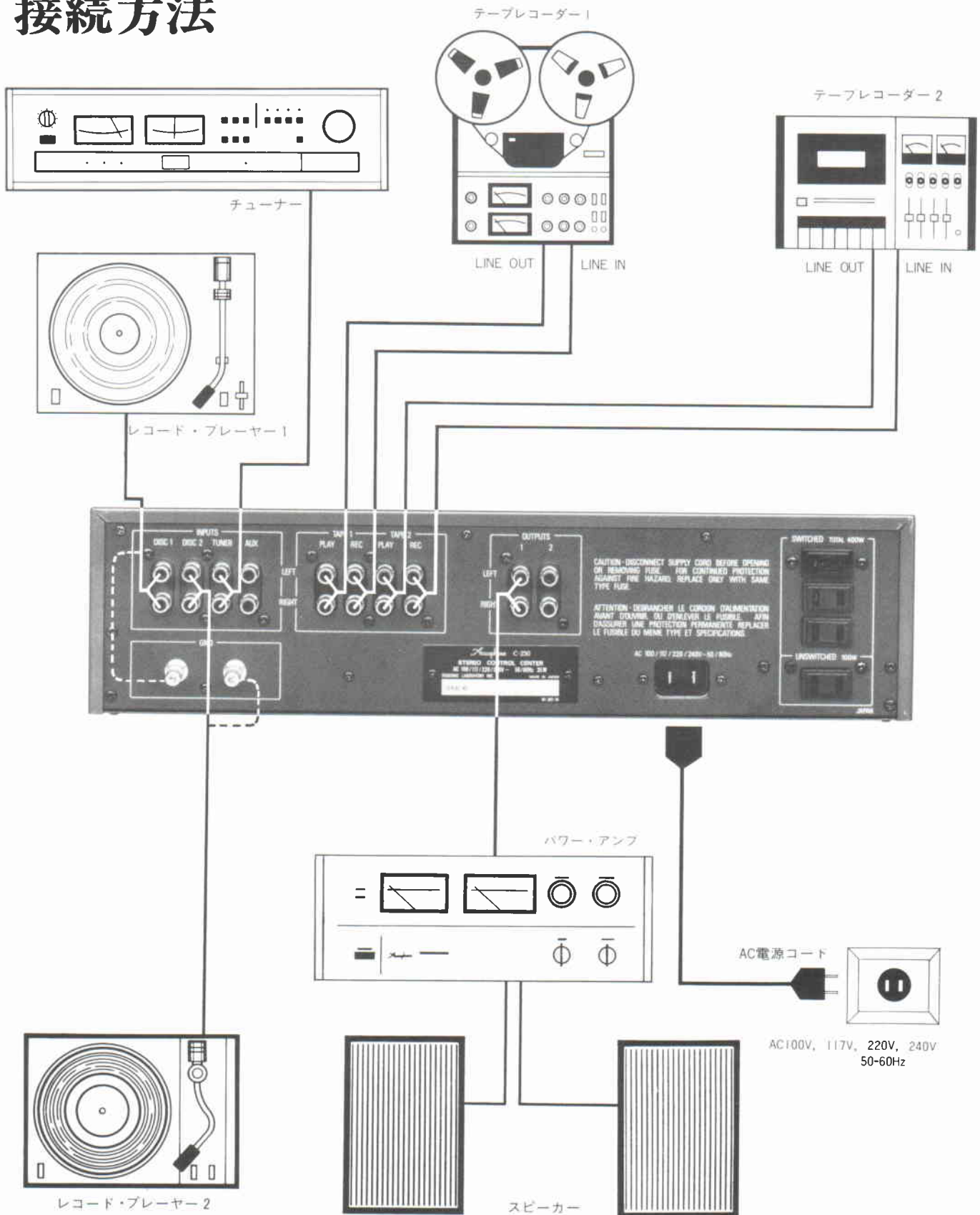
トーン・コントロールはターンオーバー周波数切替え付きで、低音が500Hz, 200Hz, 高音は2kHz, 7kHzを選ぶことができます。そして増減はスイッチによる2dBステップ式で、正確な特性を得ることができます。更に小音量時の低・高音の量感不足を補正するラウドネス・コンペンセーター・スイッチを設けました。3種類のカーブを選べますので、広範なリスニング条件に合った特性を得ることができます。

■その他の機能

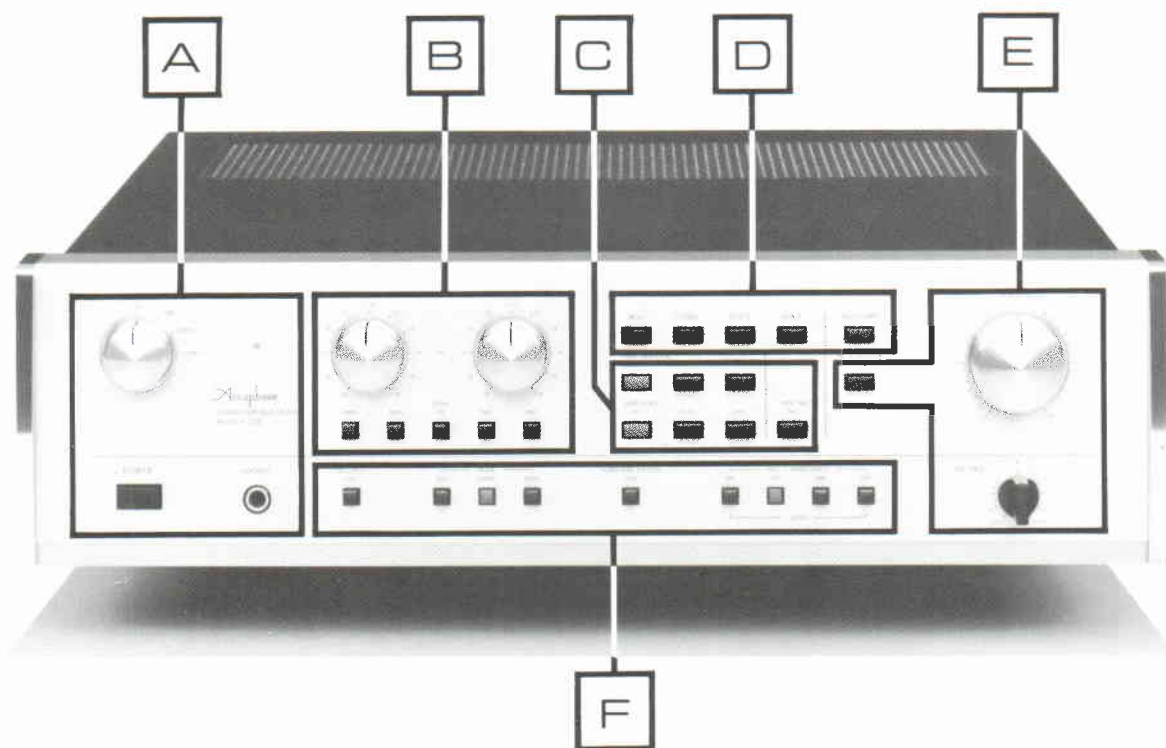
2台のテープレコーダーを使用できるテープ・モニター及びコピー機能、-20dBのミューティング・スイッチ、超低域の不要ノイズをカットするサブソニック・フィルター、本格的なモード・スイッチ、そして出力ON-OFFスイッチ等々便利なファンクションが完備しています。

表紙の写真はオプション・パーツのローズウッド・キャビネット A-9型に収納したものです。

接続方法



各部の名称と動作説明



A **POWER PHONES LOUDNESS COMPENSATOR**

POWER——電源スイッチ

押し込んだ状態で電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで、約3秒間はミューティング回路が動作していますので出力はありません。

PHONES——ヘッドホン・出力ジャック

ステレオ・ヘッドホンで聞くときに、このジャックにヘッドホンのプラグを差し込んでください。入力インピーダンス4～32Ωのヘッドホンをご使用ください。ヘッドホン・プラグを差し込んでも本機の[] OUTPUTS 端子の信号は切れませんので、ヘッドホンだけで聞くときは、[] OUTPUT スイッチを押して出力を切るか、パワー・アンプの出力を切ってください。

LOUDNESS COMPENSATOR——量感補償スイッチ

小音量でお聞きになる場合に聴感上のエネルギー・バランスを調整するスイッチです。人間の聴感特性はボリュームを下げたときには、音量により低音感が不足してきたり、

低音、高音共に不足して聞こえてきます。この量感を補うためにはこのスイッチが大変有効です。COMP1, COMP2, COMP3と数字が大きくなるにつれて効き方が強くなります。COMP1では50Hzで+6dB, COMP2では50Hzで+9dB, 低音だけを增強し、COMP3では低音を50Hzで+10dB, 高音を20kHzで+6dB增強します。この增強する量は音量調整VOLUMEを-30dBまでしぼったときの値で、音量を上げれば順次、自動的に增強量は減少します。

B **BASS TREBLE TONE**

BASS——低音トーン・コントロール・スイッチ

TONEスイッチをONにしたときに動作し、中点(FLAT)より右へまわすと低音增強、左へまわすと減衰します。2dBステップ式になっており、ターンオーバー周波数を200Hzにしたとき、50Hzで±10dB, 500Hzにしたときには、100Hzで±10dBの変化が得られます。

TREBLE——高音トーン・コントロール・スイッチ

このスイッチは高音域の調整用で、BASSと同じく2dB

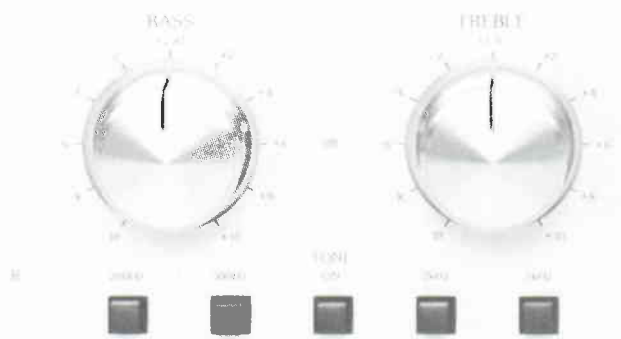
ステップ式になっています。ターンオーバー周波数を2kHzにしたとき、10kHzで±10dB、7kHzにしたときは、50kHzで±10dBの変化が得られます。

TONE——ターンオーバー周波数切替スイッチ

BASS/TREBLEのターンオーバー周波数を切り替えるスイッチです。中央のプッシュ・スイッチはトーン・コントロール回路のON/OFFスイッチで押し込んだ状態でON、再び押すと手前に出てOFFとなり、BASS/TREBLEスイッチがどの位置にあってもフラットな特性が得られます。このON/OFFスイッチの左側のプッシュ・スイッチは低音のターンオーバー周波数切り替え、右側が高音の切り替えスイッチで、低音側、高音側のそれぞれが連動しております。

本機は随所に連動するプッシュ・スイッチが使われています。プッシュ・スイッチは大変便利なものですが、連動した各スイッチは確実に操作をし、故意にいたずらをしてないようにしましょう。

連動するスイッチはどれかが常に押し込まれていることにはなりますが、操作が不完全であったり、故意に二つ以上のスイッチを押し込んだり、または総てのスイッチが手前に出てしまうと、目的の動作が得られなくなります。



TAPE MONITOR TAPE COPY TAPE REC

TAPE MONITOR——テープ・モニター・スイッチ

赤のプッシュ・スイッチを押し込んだ“SOURCE”の状態ではTAPE PLAY端子以外の入力端子からの入力信号を再生することができます。したがってテープ再生以外のときには、必ずSOURCEの赤スイッチを押ししておいてく

ださい。テープ再生をするときには、TAPE1、TAPE2それぞれの端子に接続したテープレコーダーをこのスイッチで選択してお聞きください。

レコーディングをしているときは、“SOURCE”でプログラム・ソースのチェック、TAPE“1”またはTAPE“2”へ切り替えることにより、録音されたテープのモニターが録音をしながらできます（3ヘッド・テープレコーダーの場合のみ）。また、レコーディング中に□の入力セクターやHEAD AMPスイッチを操作しますと、リア・パネルの□REC端子、□OUTPUTS端子はミュート回路が動作しますので、約2秒間出力が切れます。



TAPE COPY——テープ・コピー・スイッチ

テープレコーダーを2台使ってテープのコピーをするときにこのスイッチを使います。リア・パネル□のTAPE 1に接続したテープレコーダーからTAPE 2のテープレコーダーにコピーする場合は“1→2”のプッシュ・スイッチを押します。TAPE 2からTAPE 1へのコピーは逆に“2→1”のスイッチを押します。コピーをしているときにTAPE MONITORスイッチを“SOURCE”にしておけば、他のプログラム・ソースを聞きながら全く独立してコピーを続行することができますし、□の入力セクターでDISCとかTUNERに切り替えたときに動作する約2秒間のミュートによる音切れの影響も受けません。

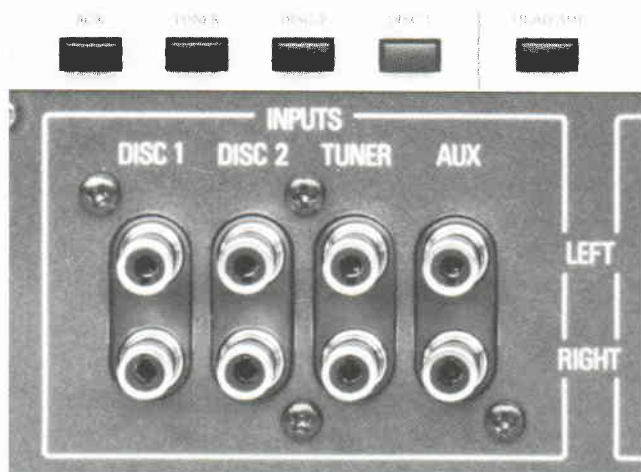
また、“1→2”でコピーをしているときにTAPE MONITORスイッチをTAPE“1”にすればTAPE 1の再生状態の確認、TAPE“2”にすればコピーされたテープをモニターしながらのコピーができます。TAPE 2からTAPE 1へのコピーのときも同じ要領です。

TAPE REC——録音出力ON/OFFスイッチ

リア・パネル□テープレコーダー接続端子のレコーディ

ング出力端子“REC”の出力をON/OFFするためのスイッチで、押し込んだ状態でOFFとなり、再び押すと手前に出てONです。このスイッチはテープレコーダーで録音中に不必要な部分をカットするときに便利です。また、テープレコーダーの電源スイッチがOFFになっていて“REC”端子に接続されているときに、テープレコーダーによって本機に接続されている他のソースに影響を与えて、ひずみを発生させる場合があります。

このようなときには、このスイッチをOFFにしておき、テープレコーダーの電源スイッチをONにしておいてください。



D HEAD AMP DISC 1 / DISC 2 TUNER AUX

HEAD AMP——ヘッド・アンプ ON/OFF スイッチ

MC型カートリッジをご使用のときは、このスイッチを押してONにしてください。左にある入力セクター・スイッチによりDISC 1、DISC 2 いずれのときにでもヘッド・アンプを動作させることができます。再び押すと手前に出てOFFになります。このスイッチは“OFF”から“ON”にするとき、その逆のときにも約2秒間ミュート回路が動作しますので音は出ません。高出力型（普通のMM型など）カートリッジを使用中に、あやまってONにしますと音量が急に大きくなり、高域の出ないバランスのくずれた音になりますので注意してください。

DISC 1 / DISC 2 —— ディスク入力セクター

リア・パネルの**G** DISC 1, DISC 2 に入力したレコード

・プレーヤーを選択するスイッチです。ミュート回路が動作しますので、切り替わるのに約2秒間を要します。

TUNER —— チューナー・セクター

リア・パネルの**G** TUNERに入力したチューナーを選択するスイッチです。このスイッチもミュート回路が動作しますので約2秒間の切り替え時間をもって切り替わります。

AUX —— 予備入力セクター

リア・パネルの**G** AUX に入力した2台目のチューナーとか3台目のテープレコーダー等をこのスイッチで選択します。このスイッチもミュート回路が動作します。

E ATTENUATOR VOLUME BALANCE

ATTENUATOR —— アッテネーター

このスイッチは押したときに“ON”となり出力レベルが20dB減衰します。ボリュームを一定のレベルに上げておいて比較試聴をするときなどのレコードの頭出しに便利です。また瞬時にレベルを下げるときにも有効です。

VOLUME —— 音量調整

右へまわすと音量が増大します。レコードをかけたり、プログラム・ソースを選択したり、電源を切るときなどは、このVOLUMEを下げることを習慣づけましょう。

BALANCE —— バランス調整

右へまわすと左側の音が小さくなり、左へまわすと右側の音が小さくなります。ステレオ再生時の左右チャンネルの音量バランス調整に使います。

F OUTPUT MODE SUBSONIC FILTER DISC-1 IMPEDANCE

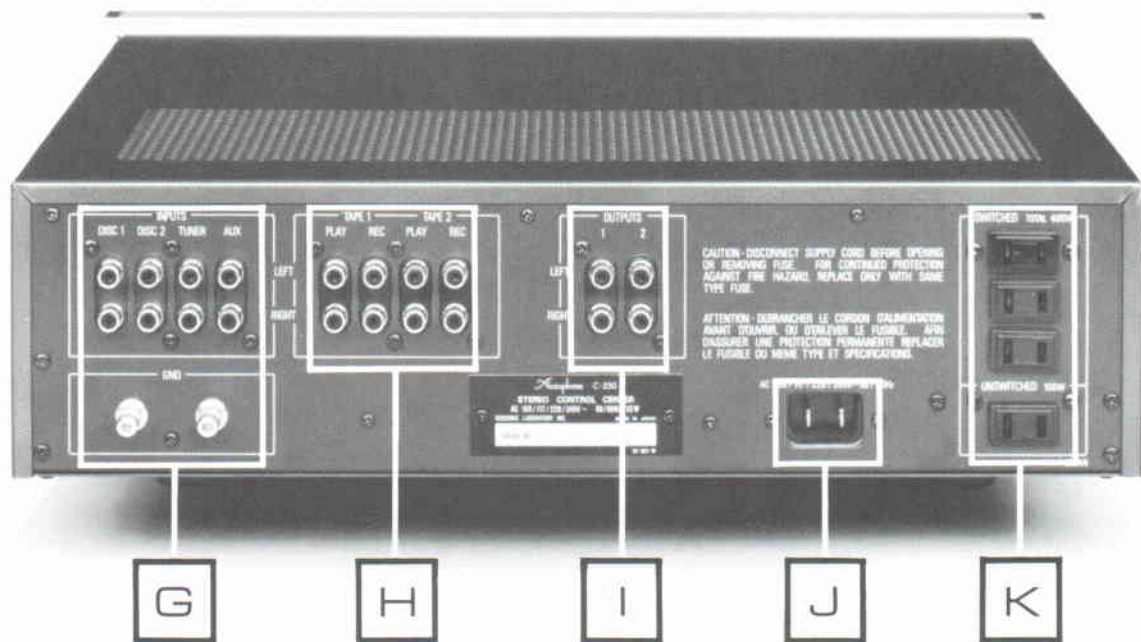
OUTPUT —— 出力 ON/OFF スイッチ

このスイッチを押して“OFF”にしますとリア・パネルの**I** OUTPUTS の2系統の出力が切れます。

MODE —— モード切替スイッチ

STEREO 赤色のプッシュボタン・スイッチ“STEREO”を押しますと通常ステレオ再生状態です。

REV プッシュ・スイッチ“REV”を押すと、ステレ



オの左右チャンネルを入れ替えた状態の再生ができます。

MONO このスイッチを押してモノフォニックの状態にしますと、左右チャンネルが完全にミックスされます。左右のスピーカーにはまったく同じ信号が入力されますので、スピーカーの中央で聞くと音像は中央に定位します。

SUBSONIC FILTER——サブソニック・フィルター

このスイッチは押し込んで“ON”です。サブソニック・フィルターは可聴帯域外の超低域 17Hz 以下を 12dB/oct という急峻な特性でカットし、超低域ノイズの可聴帯域内への悪影響を取り除くことができます。レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動によりウーファーがゆれたり、ノイズ（モーターゴロなど）がある場合には、このスイッチを入れてください。

DISC 1 IMPEDANCE——DISC 1 入カインピーダンス・セクター

DISC 1 に接続したレコード・プレーヤーのカートリッジの負荷インピーダンスに合わせてください。このセクターは HEAD AMP が OFF のときにだけ有効で、ON のときにはインピーダンスは 100Ω 固定になります。通常の高出力型（普通の MM 型など）カートリッジを使用するとき

は赤色スイッチの 47kΩ が標準です。カートリッジの推奨する負荷インピーダンスと本機の 4 種類のインピーダンス値が合わないときは最も近いインピーダンスで使用してください。

MC 型の高出力カートリッジの中で、特に低負荷インピーダンスを指定しているサテン音響製のカートリッジを使用するときには 100Ω をお使いください。なお普通の MM 型、IM 型の高出力カートリッジを 100Ω ポジションで使用しますと、音量が極端に低下するとともに高音部の減衰したこもりがちの音質になりますので注意してください。負荷インピーダンスを選択するときは、増幅度の大きいところで素子を切り替えていますので、切り替えるときは音量調整 VOLUME を下げてから、確実に一ヶ所を選択するように、操作は確実に行ってください。



INPUTS

DISC 1 / DISC 2——レコード・プレーヤー入力端子

“DISC 1”と“DISC 2”の入力端子には、レコード・プ

レーヤーの出力コードを差ししてください。DISC 2 にはショート・ピンプラグが差し込まれて出荷されておりますので、DISC 1 しか使わないときには、DISC 2 のショート・ピンプラグはそのままにしておいてください。もし DISC 2 にもプレーヤーを接続するときは、ショート・ピンプラグを左右にねじるように引き抜いて AUX 端子に差し込んでおいてください。ショート・ピンプラグは入力端子のあいだに差し込んでおくことは正しい使い方ですが、絶対に出力端子(TAPE REC, OUTPUTS)には差し込まないようにしてください。これらに差しますと出力がなくなります。また、下にある GND 端子は、レコード・プレーヤーのアース端子として使い、レコード・プレーヤーから LEFT (左)、RIGHT (右)の出力コードといっしょに出ているアース線を接続してください。

TUNER/AUX——チューナー/予備入力端子

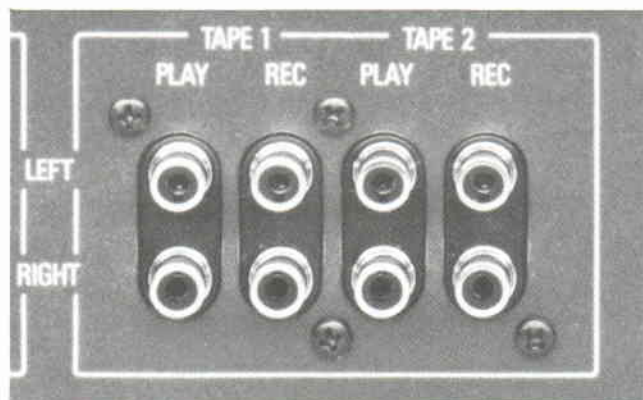
“TUNER”にはチューナーの出力コードを接続してください。“AUX”は予備入力端子ですから、2 台目のチューナーとか、3 台目のテープレコーダーの LINE OUT を接続しますと、テープの再生専用に使えます。



TAPE 1/ TAPE 2

PLAY/REC——テープレコーダー再生/録音端子

2 台のテープレコーダーを接続することができます。PLAY にはテープレコーダーの LINE OUT を接続し、REC には LINE IN の接続コードをつないでください。REC 端子の出力は本機の VOLUME, BASS/TREBLE, COMPENSATOR などには一切関係しませんので録音レベルはテープレコーダー側で調整してください。



OUTPUTS

OUTPUTS——出力端子

2 系統の出力端子をそなえていますので、2 台のパワー・アンプを切り替えて使うときなどに便利です。通常はどちらか 1 系統の出力をパワー・アンプへ入力します。



電源コード受口

電源コード受口

本機へ供給する AC 電源の受口です。付属の電源コードを差し込んでください。

■電源電圧の切り替えと電源ヒューズについて

電源電圧の切替プラグおよび電源ヒューズは、シャーシ内部についております。上面のケースをはずしますと、電源トランスの横についています。

使用できる電源電圧は 100V、117V、220V、240V の 4 段階に切り替え可能です。国内でお求めの場合は 100V にセットされております。

電源ヒューズは電圧により定格が変わります。本機のヒューズは 100V/117V のとき、スロー・ブロー (SLOW-BLOW) タイプ 1A、220/240V のとき、スロー・ブロー (SLOW-BLOW) タイプ 0.5A となっています。ヒューズは特に原因がなくても切れてしまうことがあります。

電源電圧の変更や、ヒューズが切れて電源が入らなくなったときには、お求めの専門店、または弊社の品質保証課までご連絡くださいますようお願い申し上げます。



SWITCHED/UNSWITCHED

SWITCHED——電源スイッチ連動コンセント

本機と接続する他の機器の電源をこのコンセントからとりますと、フロント・パネルの電源スイッチによって ON/OFF を一斉におこなえます。接続する機器の消費電力の合計が 400W を越えないように注意してください。

UNSWITCHED——電源スイッチに連動しないコンセント

本機の電源コードがACコンセントに接続されている場合、電源スイッチのON/OFFに関係なく、他の機器への電源供給ができます。接続する機器の消費電力は100Wを越えないように注意してください。

ご注意

■パワー・アンプや他の機器と直接かさねて設置しないようにしてください

本機はMCカートリッジ用のヘッド・アンプを内蔵したハイゲイン・ブリアンプのために、パワー・アンプや他の機器の漏洩磁束により電磁誘導を受けてハム音（ブーンという音）がスピーカーから聞こえることがありますので、パワー・アンプや他の機器と直接かさねないようにしてください。機器間の距離は10cm以上はなすようにし、ラックなどに入れて使うときには、パワー・アンプの放熱についても十分な配慮をしてください。

■入出力コードを抜き差しする場合は、必ず電源を切ってから行なってください

RCAタイプのピンプラグ（通常のオーディオ機器に使用されているもの）を端子から抜き差しするときは、（+）側、（-）側ともに同時に入ったり切れたりせず、（+）側が先に入ったり、残ったりする構造のため、一瞬（-）側が浮いた状態になって大きなショック・ノイズを発生し、スピーカを破損する原因になります。

各機器間の入出力コードを抜き差しする場合は、必ず電源をOFFにしてから行なってください。

■ショート・ピンプラグについて

DISC2の入力端子にショート・ピンプラグがセットされています。DISC1入力端子のみ使用のときは、DISC2のショート・ピンプラグはそのまゝにしておいてください。抜きとったショート・ピンプラグは、TUNER, AUX, TAPE PLAYの各入力端子で使用していない端子がある場合は、その端子に差し込んでおいてください。

TAPE RECおよびOUTPUTSの各出力端子には絶対に差し込まないようにしてください。ここにショート・ピンプラグを差し込みますと音が出なくなります。

ご使用方法

■レコードをお楽しみになる場合

レコード・プレーヤーの出力コードがL, R共に正しくリア・パネル⑤のDISC1（及びDISC2）に接続され、プレーヤーのアース線もGND端子に接続されていることを確認の上、つぎの手順で操作をしてください。

① DISC1につないだレコード・プレーヤーのカートリッジがMM型やIM型の高出力型カートリッジの場合は、⑥ディスク・入力インピーダンス・セクターで負荷インピーダンスを選択してください。通常は47kΩが標準です。

② ⑦の入力セクターのDISC1（またはDISC2）プッシュ・スイッチを押してください。また、カートリッジがMC型のときにはHEAD AMPスイッチを押してONにしてください。

③ ⑧のOUTPUTスイッチがON、⑨TAPE MONITORスイッチがSOURCEになっていることを確認してください。

④ VOLUMEをあげていきますと演奏が聞こえてきます。BASS/TREBLEのトーン・コントロールやLOUDNESS COMPENSATOR、で音の調整をしてください。

⑤ レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動によりウーファーがゆれたり、ノイズ（モーターゴロなど）がある場合には、SUBSONIC FILTERを入れてください。

■チューナーで放送を聞く場合

チューナーの出力コードがL, R正しく⑩のTUNER端子に接続されていることを確認してください。レコード再生のときと同じ要領でOUTPUTスイッチやTAPE MONITORスイッチの確認をして⑦の入力セクターをTUNERにします。あとはVOLUMEをあげれば聞こえます。

チューナーのときの音量が、レコード再生のときよりもVOLUMEの位置が同じで、違うときはチューナーのレベル・コントロールで調整してください。

■テープレコーダーで録音、再生をする場合

リア・パネルHのREC端子とテープレコーダーのLINE IN端子、PLAY端子とLINE OUT端子が正しく接続されていることを確認してください。

1. 再生(プレーバック)

フロント・パネルCのTAPE MONITOR スイッチでTAPE“1”、TAPE“2”の選択をしてください。D入力セクターがどの位置にあっても“1”または“2”を選択すればテープレコーダーを聞くことができます。TAPE MONITOR スイッチを“SOURCE”にすれば、また入力セクターで選択しているものに戻ります。

2. 録音(レコーディング)

レコーディングする場合はつぎの手順で行なってください。

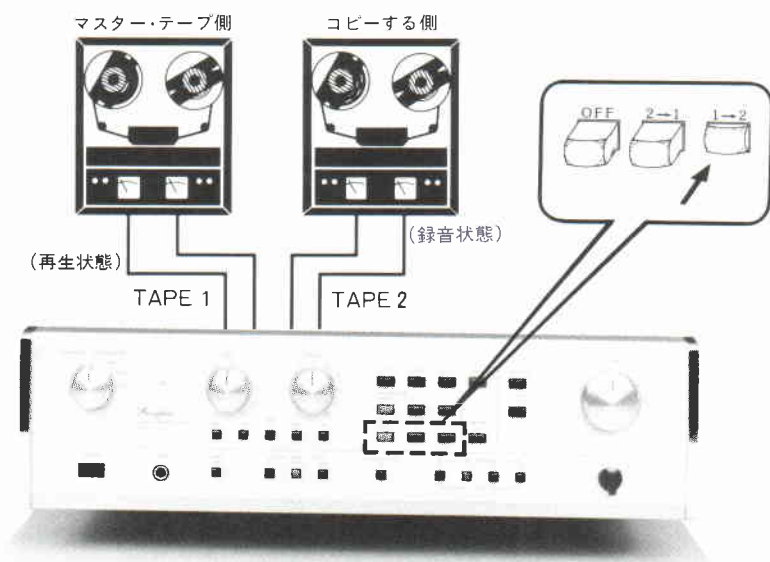
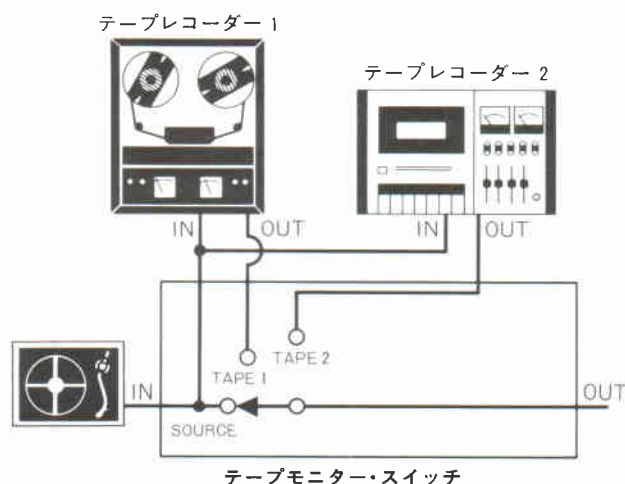
- ① プログラム・ソースを選び、スピーカーから音を出します。
- ② テープレコーダーを録音状態にすればスピーカーから出ている音が録音されます。
- ③ 本機のVOLUME、BASS/TREBLE、COMPENSATORは録音される音には関係しません。録音レベルはテープレコーダー側で調整してください。
- ④ TAPE MONITOR スイッチをテープレコーダーにあわせて切り替えますと、録音しながら録音されたテープのモニターができます。
- ⑤ 2台のテープレコーダーの同時録音も可能です。

3. コピーのしかた

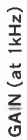
本機にはTAPE COPY スイッチがついていますので、レコードや放送を聞きながら、まったく独立してテープのコピーができます。テープのコピーを作るときは次の手順で行なってください。

- ① リア・パネルHの“TAPE 1”、“TAPE 2”に正しくテープレコーダーを接続してください。
- ② TAPE 1をマスターとしてTAPE 2側でコピーする場合は、フロント・パネルCのTAPE COPY スイッチを“1→2”にセットします。逆の場合は“2→1”にセットします。
- ③ マスター側のテープレコーダーを再生状態、コピー側のテープレコーダーを録音状態にすればコピーができます。

- ④ TAPE 1→TAPE 2でコピーをしているときは、TAPE MONITOR スイッチをTAPE“1”にしますとマスター・テープの音が、TAPE“2”にしますとコピーされたテープの音が聞けます。TAPE 2→TAPE 1のときはこの逆になります。
- ⑤ コピーが進行しているときでも、TAPE MONITOR スイッチを“SOURCE”にしますとコピーとは無関係にレコード、チューナーを聞くことができます。このときにDISCからTUNERへ切り替えたりしたときのミューティング回路の動作による音切れはコピー中のテープには一切関係しません。



TAPE 1からTAPE 2へコピーする場合



保証特性

周波数特性 (新IHF)

ハイレベル入力: 20-20,000Hz +0, -0.2dB

ディスク入力: 20-20,000Hz ±0.2dB

高調波ひずみ率 (新IHF THD+N)

0.005%以下 20-20,000Hz (すべての入力端子にて)

入力感度・入力インピーダンス

入 力 端 子	入 力 感 度		入 力 インピーダンス
	定格出力時	新IHF (0.5V出力)	
DISC (HEAD AMP: OFF)	2.5mV	0.96mV	100, 47k, 82k, 150kΩ
DISC (HEAD AMP: ON)	0.125mV	0.05mV	100Ω
AUX, TUNER, TAPE PLAY	160mV	62mV	47kΩ

定格出力・出力インピーダンス

OUTPUTS: 1.3V 20Ω

TAPE REC: 160mV 200Ω

ヘッドホーン

出力インピーダンス 0.3Ω

出力(8Ω負荷) 0.25W 1kHz ひずみ
(THD+N) 0.01%

S/N(A-補正)・入力換算雑音

定格入力時 入力ショート

TUNER・AUX・TAPE PLAY: 112dB -128dBV

DISC (HEAD AMP OFF): 87dB -139dBV

DISC (HEAD AMP ON): 74dB -152dBV

新IHF

TUNER・AUX・TAPE PLAY: 92dB

DISC (HEAD AMP OFF): 85dB

DISC (HEAD AMP ON): 76dB

最大出力レベル

8.0V以上 ひずみ(THD+N)0.005% 20-20,000Hz

ディスク最大入力

HEAD AMP OFF: 300mVrms 1kHz ひずみ
(THD+N)0.005%

HEAD AMP ON: 15mVrms 1kHz ひずみ
(THD+N)0.005%

最小負荷インピーダンス

OUTPUTS: 1kΩ

TAPE REC: 10kΩ

ゲイン

TUNER・AUX・TAPE PLAYより

TAPE REC: 0dB

OUTPUTS: 18dB

HEADPHONES: 18dB

DISC (HEAD AMP OFF)より

TAPE REC: 36dB

OUTPUTS: 54dB

HEADPHONES: 54dB

(DISC入力HEAD AMP ON時は+26dB)

トーン・コントロール

11接点ロータリー・スイッチによるステップ式

ターンオーバー・ポイント 低音: 200Hz, 500Hz

高音: 2kHz, 7kHz

低音 500Hz: ±10dB (100Hz) 2dBステップ

200Hz: ±10dB (50Hz) 2dBステップ

高音 2kHz: ±10dB (10kHz) 2dBステップ

7kHz: ±10dB (50kHz) 2dBステップ

ラウドネス・コンペンセーター

COMP 1: +6dB (50Hz)

COMP 2: +9dB (50Hz)

COMP 3: +10dB (50Hz), +6dB (20kHz)

(VOLUMEコントロール -30dBにて)

サブソニック・フィルター

17Hz -12dB/oct

アッテネーター

-20dB

使用半導体

85Tr 16FET 51C 22Di

電源及び消費電力

100V, 117V, 220V, 240V, 50/60Hz

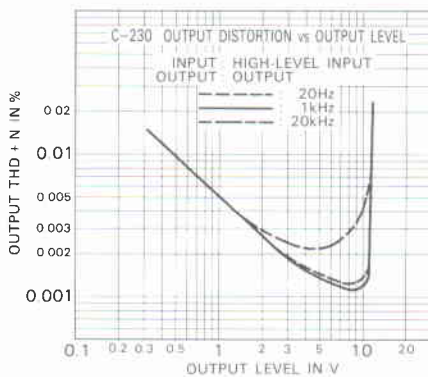
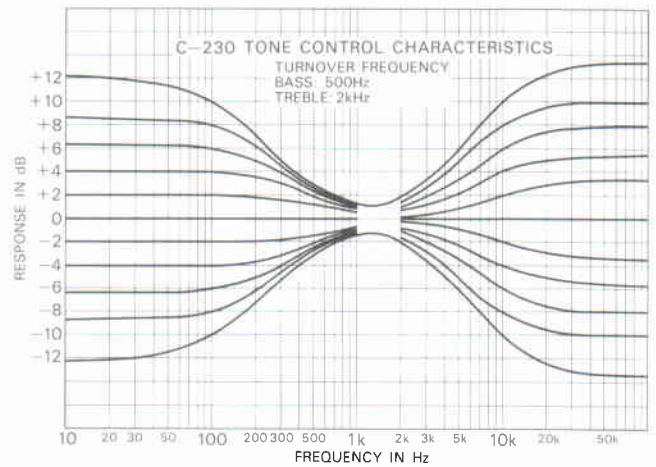
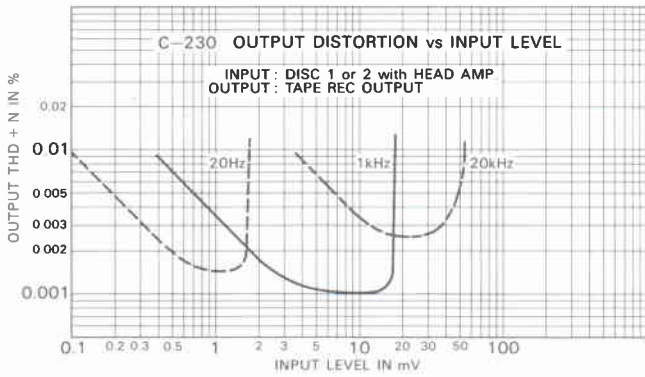
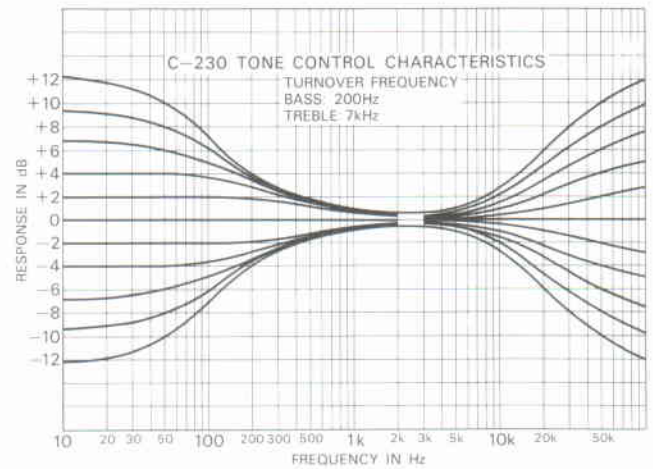
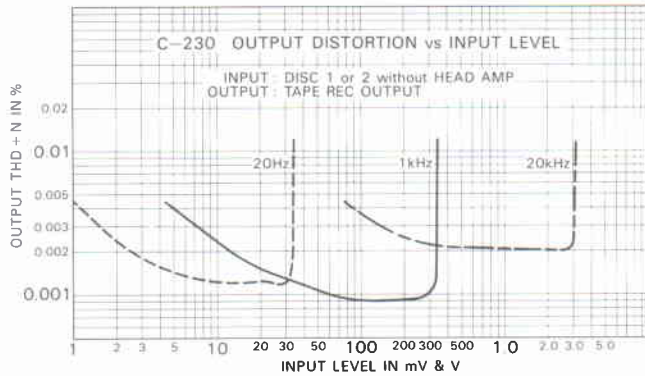
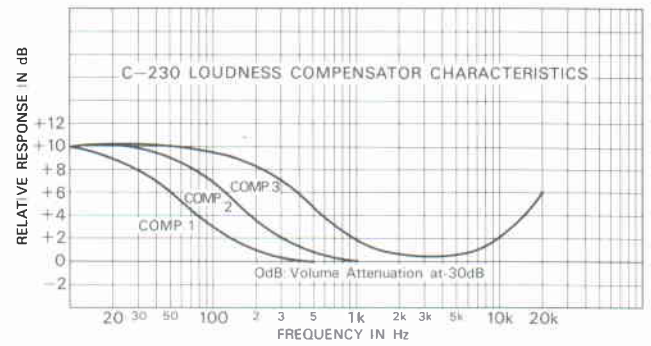
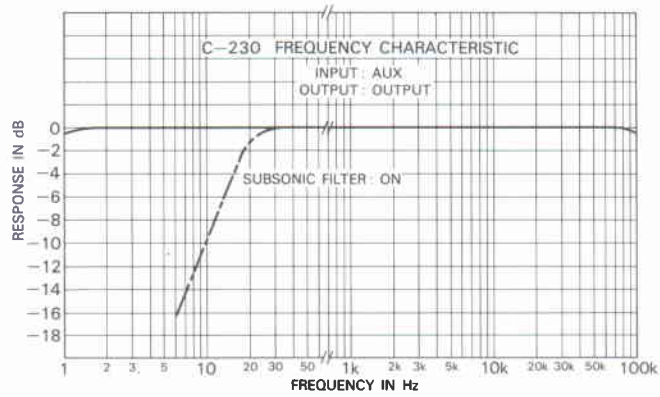
消費電力 35W

寸法・重量

幅445mm×高さ128mm(脚含む)×奥行370mm

10.0kg

特性グラフ



KENSONIC LABORATORY INC.

Accuphase

ケンソニック株式会社
横浜市緑区新石川2-14-10
〒227 TEL(045)901-2771(代表)